

クラス	TU104	担当教員	小坂 啓史
テーマ	社会学的想像力 ～「子ども」と「発達」の社会的理解へ～		
著書・論文 研究課題等	<p>&lt;近年の研究課題&gt;：社会福祉の新自由主義化と&lt;生&gt;の社会的理解 &lt;著書・論文等&gt;</p> <p>◆ 『発達障害』概念の政策対象化と問題構制（『現代と文化』第120号、2010年）</p> <p>◆ ‘The Dominance of Care-Management Approach for the Elderly in Japan: The Emergence of Bio-Politics under the “Long-Term Care Insurance” Act’（『現代と文化』第123号、2011年）</p> <p>◆ 「エイジズム」（藤村正之編『いのちとライフコースの社会学』弘文堂、2011年）</p>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：社会学的想像力、「子ども」と「発達」、家族と親密性・社会化、後期近代と社会関係・排除			
<p>≪目的・内容≫</p> <p><b>（1）社会学的想像力を身につけよう</b></p> <p>このゼミでは、まずは社会学的想像力を身につけていくことを目的としていきます。社会学的想像力とは、アメリカの社会学者C.W. ミルズが提起した考え方で、同じ名前の著作も公刊されています。ミルズはその本の中で、「巨大な歴史的状況が、多様な諸個人の内面的生活や外面的生涯にとって、どんな意味をもっているかを理解することができる」（『社会学的想像力』訳書 p.6）こと等が社会学的想像力である、としています。こうした考え方は、社会問題と私たち個人々の生活問題とが結びついていること、ひいては社会の仕組みや変化といったものが、私たち自身のふるまいや有りようと、常に関わっていることに目を開かせてくれるものです。</p> <p><b>（2）「子ども」とは？「発達」とは？</b></p> <p>次に、この社会学的想像力を使って、改めて「子ども」と「発達」とについて考えてみましょう。「子ども」という言葉で指し示していることの内容は、実は社会のあり方と関わりが深いこと、そして「発達」ということの意味も同様であることを理解していきます。さらに「子ども」を取り巻く身近な環境（家族や地域社会など）から、後期近代とも位置づけられる現代社会に至るまで、幅広く考えていきます。</p> <p><b>（3）社会学的研究方法を学ぼう</b></p> <p>その上で、社会学的な方法論について学んでいきます。これは、4年生時の卒論への取り組みにも直接関わってくるのですが、みなさんがそれぞれの問題関心、研究テーマについて追求する際には、そもそも研究方法についてちゃんと知っていることが大事です。どのようなタイプの研究スタイルがあるのか、そしてその具体的な手続きは？といったことを把握し、使っていくことができるようにしていきましょう。</p> <p>≪方法・授業計画≫</p> <p>進め方は基本的にゼミナール形式です。共通文献・論文等を取り上げて、報告とディスカッションをしていきます。しかし幅広く、そして多くの異なる意見について傾聴することも大切であるということから、3年生（あるいは4年生）の夏休み期間に、他大学と共同で開催する5大学合同ゼミ合宿に参加します。また、経験から学ぶという観点から、障がい者福祉施設等における介助活動への参加も考慮中です（これらは、きちんと参加することを念頭に置いておいてください）。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p><b>3年生</b>では、①専門的な知識を増やし深く理解していくことが、まずは重要だと考えられます。さらにそれによって、②社会のさまざまな見方、とらえ方を身につけ、社会的な出来事を多角的に読み解く応用力をつくっていくことも重要です。「子ども」をめぐるさまざまな社会問題（虐待、「いじめ」、無縁化、貧困など）と、それへの対応（教育や児童福祉・家族福祉政策など）についての知識をふまえつつも、これらを生みだしている社会そのもののあり方について、リアルな実感を伴って考えていけることが大切です。ここから、③自分自身の研究について構想し明確化していきましょう。</p> <p><b>4年生</b>では、3年生時から自分なりに徐々に準備し、進めてきた研究の成果を出していくことが重要な課題です。大学生としての4年間の総仕上げとして、卒業論文に取り組んでいくこととなります。</p> <p>ゼミでは禁句が2つあります。それは、「<b>わかりません</b>」「<b>同じです</b>」という意見（？）です（これらのバリエーションも含まれます）。もしわからないことがあれば、どこがわからないのか問題提起をして、みんなで話し合っていていけばよいことですし、また、意見が他のゼミ生と同じであっても、きちんと自分の言葉で述べられることが大事です。<b>わからないことや知らないことがあるのは、別に恥ずかしいことはありません</b>。集中しつつも<b>リラックス</b>し、ゼミに臨んでください。そのための環境作りには十二分に配慮していくつもりです。</p>			